

平成26年 6月24日 【火曜日】

山道の歴史など広く紹介

増毛山道の会がパネル展

札幌駅前地下歩行空間で

NPO法人増毛山道の会（伊達東会長）は二十一日、札幌駅前地下歩行空間で「甦る古道〜増毛山道ふれあいフェスタ」を開催した。写真、山道の歴史を解説したパネルや航空写真、活動写真などを展示。そのほか、明治四十年に埋設された長さ約百二十メートル、一等水準点も展示し、山道の歴史と会の活動を広く啓蒙した。

増毛山道は、江戸時代に活躍した商人・伊達林右衛門が、安政四年（西暦一八五七年）に石狩市浜益区〜増毛町別荘間に開通させた延長二十七キロの交易路。山道の歴史や文化を風化させないようとの思いから、平成二十年に増毛山道



の会が発足。法人会員の小杉測量設計㈱（留萌、小杉忠利社長）が本業の技術を生かして測量を行い、会員と留萌振興局が協力しながら、山道の復元を進め、二十二年度までに別荘〜岩尾ルート（約十六キロ）が開通した。

この日は、会員約二十人が参加。山道の歴史を解説したパネル三十三点、山道の全長を写した航空写真、同会の活動のひとつであるトレッキング写真、明治四十年に埋設された一等水準点などを展示した。同

会の小杉忠利事務局長は、「山道の存在を知らない人が多くいる中、会の活動や山道の歴史を知ってもらうことができ良かった」と感想を述べた。一般来場客は、推定で約一千五百人。この日のために用意した、同会のガイドマップ四百部がまたたく間になくなるほどの盛況だった。

同会は、本年度も一般の方が参加できるトレッキングを計画。八月以降では、八月十六日のミニコース、九月十三日のフルコース、九月二十七日のミドルコース、十月十二日のアタックコース、十月二十五日のフルコースの計五回を予定しており、参加者を募集している。参加申込は、同会HPに詳細を掲載しており、一週間前までが応募期限となっている。